

会議録（要点記録）

会議名称	令和5年度 第3回小金井市精神保健福祉連絡協議会		
開催日時	令和6年2月22日（木）14:00～15:15		
開催場所	小金井市役所第二庁舎 801会議室		
出席者等	委員：小高会長、牧野副会長、有泉委員、中村委員（欠席）、坂上委員、執行委員、小椋委員、鈴木委員、山岡委員（欠席）、石川委員、杉山委員、藤原委員、大澤委員（欠席） 事務局：自立生活支援課長、相談支援係長、相談支援係主事		
傍聴の可否	可	傍聴者数	1人
会議次第	1 開会 2 議題 (1) 退院促進の現況について (2) 事業所へのアンケート結果について (3) 今年度の協議会のまとめについて (4) 来年度の進め方について 3 その他 4 次回の開催日について		
会議結果	1 開会 2 議題 (1) 退院促進の現況について ・資料に基づき説明を行い、退院者が4名で、年度当初の目標3名を達成したと承認された。 【質疑応答】 ・80代女性の方、グループホームというのは介護保険ではなく障害福祉のほうでということか。 →介護保険と障害福祉サービスを比べたときに、両方、同等のサービスがあれば、介護保険優先。ただし、介護保険のサービスではカバーし切れないような状況があった場合には、障害福祉サービスも使える。個別事情によりこのようなケースもある。 ・別紙1-2を見ると、退院後はどこに行ったかというのを見ると、都外のグループホームに3名ということで、都内はグループホームが不足しているのが原因か。 →この3名については、精神障がい、知的障がいのある方なので、ど		

うしても都内は限界で、都外で探した。

(2) 事業所へのアンケート結果について

・送付事業者数は、表1に書いてある事業所。ヘルパー事業所、通所事業所、計画相談、ケアマネ事業所、グループホーム、訪問看護事業所。こちらの事業所は障害福祉だけではなく、介護保険の事業所にも送付した。回答数は68で、回答率は35.2%。

・精神障がいのある方への支援を行っているか、回答はほぼ半々で、行っている事業所のほうがやや少ないという結果。

・問2で「はい」と答えた事業者に対する回答が問3のもの。多いのは、時間がかかることと、支援する方の不足、情報共有に対して、情報共有ということで結構時間がかかってしまうことが出ていたと分析。次は、特に力を入れている点、工夫されている点はという質問をまとめたもの。時間が多くかかる。繰り返し説明をする、電話がかかってきたらできる限り対応する、どうしたいのかという希望を一つに分けて対応するなど、一つの対応に対して、非常に多く時間をかけているところ回答から見て取れた。

・事業所で精神障がいのある方を支援していない事業所の回答について。理由は、ニーズがないという答えが一番上で、あと、児童の対応事業所だという事業所独特の事情等と、人員不足と知識の不足。

・どのような支援があれば精神障害のある方を対応できるについて、人員体制に関して言及、精神疾患の知識が身につけられるような専門家の派遣、研修の実施、事業者への補助金など回答あり。

(3) 今年度の協議会のまとめについて

・資料3は「令和5年度 小金井市精神保健福祉連絡協議会 まとめ」と題し、協議会、部会の内容でキーワードを収集、話合いの中で出た、小金井市の現況の部分、あと協議会で出た課題について羅列したもの。事業所は特段不足しているわけではない、退院支援は居宅がないと戻りにくい。長期入院になると居心地がよくなって退院しづらくなる傾向。また、10月に開いた部会の家族会の意見とかも踏まえ経済的支援の重要性、手当の支給、短時間勤務による給与収入があることの重要性。疾患に関する若いときからの教育の必要性について、若いとき

から精神疾患のことについて教育をすることで、いじめ、差別というものを早い段階から教育してなくしていくことが大事。

- ・ 2番、課題について。精神障がい以外の障がいのある方を受け入れる医療機関の不足。続いて、病院と地域の支援機関と本人の顔合わせの機会の検討が必要。家族曰く「一番困難を感じるのは退院時。」それに対応できる支援制度が欲しい。具体的には24時間、365日、相談できる支援体制の必要性とその機関が孤立しないための措置。警察を呼んでも専門的なものは分からないため適切な支援が受けられない。そのため年末年始等対応している医療機関が助けを求められる支援機関が閉まっているところも課題。

- ・ 一番大事なのが退院時の支援を強化。次に、医療費の支援。マル障は精神疾患の方の場合は1級しか受けられない。さらに就労の機会。障害者雇用は機会が増えているがまだ足りない。

- ・ 本人への支援としては、ヘルパー事業所やサービス事業所の存在、あと相談機関の存在。できれば24時間対応できるといい。相談機関は家族へのフォローも重要。

- ・ サービス事業所と相談機関に対して、いわゆる補助金、人的支援の必要性、精神疾患の専門家との連携、教育を事業所に行えるといい。

【質疑応答】

- ・ 計画相談支援事業所が、小金井市内に事業所が特別不足しているわけではないのか。支援している中で、計画相談はなかなか受けていただけないような感覚がある。それは事業所の計画相談については少ないからなのか、なかなか小金井市内で見つけにくいと感じているが。

→ 困難案件は相談支援事業所と特に連携するために市が探すのが確かになかなか見つからないと思っている。数はあるが精神障がいの方を受けるところというのは、なかなかないという現状。事業所が高齢化等で撤退するケースもある。単純な量としては不足していないので、このキーワードが挙がった。

- ・ 精神障がいのある方に関して、支援をしてもらえないとすると、事業者数としてはあるのだけれども、精神となると少し抵抗があるというか、なかなか難しいというところも一つの課題か。

→課題と考える。

・そこは人員不足や、専門的な知識不足というところにつながってくるという理解でよろしいか。

→お見込みのとおり。

・記載があったところの支援を行えない理由について、今後話し合いをしていかなければいけない。資料の55番の回答の中で、精神の障害福祉サービスの報酬単価が他の障がいと比べて少ない傾向があるとなっているが事実か。

→精神障がいの方への支援だからという理由で同一サービスの単位数に差異はない。しかし送迎、医療的ケア、強度行動障がいへの支援に対し個別に加算がつくシステムでもあるので、相対的に精神障がいの方は少ないということであれば、その差が一つと見込む。

【主な意見】

・重複障がいのある方のグループホームが市内に不足していることが一つの課題。

・アンケートの問2で、「いいえ」と答えた事業所が、人員が足りない、知識がまだ不十分であると回答した理由、そういった事業所に対して、何をするかという問題もあると思うが、包括支援に向けて考えるなら、それを比較するとか、何か研修、例えば過配置による人員確保等の補助金制度があればとか、そういう意見も書いてある事業所もあるので、何か一つずつ、毎年何かやっていると、対応する事業所も増えていくのではないか。アンケートの結果の問2で、精神障がいのある方への支援を行っているかの問いに、「いいえ」で答えた理由が半分ぐらいあって、やっていないことに対して理由がある場合、そこにアプローチしたら、その事業所が対応できるようになり、希望、ヒントがあるのではないか。

・10月の家族会との懇談会で、退院時が大変という話と、発症時の急性期に、どうしていいか分からないと、苦勞を話されていた。どこにもつながっていない状況で相談にくるけど、我々が動こうとすると、本人は病識もなく障がいでもないということで、親も、そこに踏み込んでほしくないというところがある。しかしすごく苦しんでいるとい

う状況を見ているので、支援の在り方に悩む。最近、そのような相談が増えていたりして、何かサービスにつながるまで相談を受けることが家族へのフォローになるのかと思う。

・ADL的なところが問題ないから身体、知的障がいと比べ支援区分が低くなって、実質単価にはつながらないということか。支援の時間がかかるといふ部分は、他の障がいに比べても同等以上のものがあるという答えが書いてあるのかなと思うと、その辺も考える余地がある。精神に特化した専門知識がないことで、受け入れができないということもあるというような話も聞いている。マンパワーが地域として不足ということに関してのアプローチも必要ではないか。発症時とか退院時の急性期のところの支援について、何が出来るのかということと、家族の方に対するできる支援というの、少し明確化して、分かりやすくお伝えできるものあがるといい。

・人材不足というワードが出ているが、おそらく現場の人は、100%全員実感されていると思う。離職率がとても高い業界なので、このまま人がどんどん流れて新しい人が全然入ってこないというのは、小金井市に限った話ではなく、本当に大きな課題だ。来年度、障害福祉サービスの報酬改定がある。障害福祉のほうも報酬改定があって、全体的にプラス改定。居宅介護、ヘルパー、相談支援についてかなりプラスとなるので、それと紐づいて、自分たちのマンパワーの不足とか、そういうところの解決にもつなげていくという視点も大事だ。

・精神障がい者数は右肩上がり。手帳の取りやすさが理由と考える。リワークをするとか、就労移行に通いたいとか、就労移行の事業所に、多くの営利の団体、企業が入ってきている。小金井市は計画相談を必須にはしていないのであまり影響はないが、他市は、どのサービス使うのも計画相談が見つからず、受けるほうも大変な状況。日本の障害福祉サービスの制度設計は課題が多く、手続きが煩雑で、支援事業者も行政側も頭悩ませながらやっている。アンケートで出ていたことというの、ものすごく密接だ。

・人材不足というのは、現場にいて強く感じる。看護師、ヘルパーは職種を選択できないのに離職率が高い。徐々に精神障がいの方の利用

が多くなってきている。原則看護師は高齢者から支援に入るから、精神と小児は特殊だという感覚になる。精神障がい分からない状態で精神科の訪問看護をやっているというのが、人材不足にプラスして教育不足となると思う。人材確保ができたとしても、教育がうまくなされない、利用者、患者が不利益、不快な思いをする。精神疾患に関する勉強会というのもどんどん増やしていったほうが周知という意味でもいいと思うが、いざ勉強会になったら、精神障害のある方の家族しか参加しない現実がある。近所のヘルパーが勉強会に参加してくれるかという、そうでもない。

- ・ 24時間、365日の相談できる支援機関の必要性は確かにある。今すぐではなく、例えば半日、9時から5時までの相談窓口をつけるとか、ハードルを低くしたらやりやすいのではないかな。

- ・ 患者が高齢化していて、実際、家族がいない方も多い。それが非常に大きく影響していると見ている。

- ・ 24時間、365日相談できる支援機関、医療体制としては、東京都にはそういう精神科の救急体制が結構前からある。その辺はほかの地域の体制と比べしっかりしている。

- ・ 最近、救急病棟は、東京都の場合は非常にたくさん出来ている。あと、病棟の精神科の患者が減ってきているので救急も以前よりは非常に入りやすくなっている。

- ・ 一つのケースに丁寧に関わろうとすると、時間とマンパワーを取られ、かつケースの対応だけではないというところにとってもジレンマがある。工夫されている点を見ても、丁寧に関わることを大事にしているようだ。その反面、人手が足りないというところに結びついている。

- ・ サービスにつながっていない方への対応も難しいと思う。サービスにつながると、誰かの目が入って、別の支援者、チームの輪が広がるが、どこの事業所も入れていない状態だと、何の支援も入らないまま何年も経過することもある。精神保健に課題を抱える方についても、市のほうで相談を受けていくという方向性になっているので、困難事例の共有、問題点の抽出が課題としてなってくるのではないかな。サービスにつながっていない多問題家庭と思われる事例が出てきたときに

は連携が必要だ。

- ・小金井市の辺りは大きな精神科病院が幾つもあり、ある病院が実施している精神科の地域連携プロジェクトがある。疾患が重複しているといっても、精神疾患はもちろん、発達障がい系とボーダー系なものも重複しているとか、そういう方が多いが、病院で支援できる。

- ・出てくるワードとしては、重複障がい、特に発達障がい、知的障がいというところの重複、そういった方を受け入れるグループホームが市内に不足していて、みんな都外に出ているのではないかという話もあった。

- ・重複障がいの方に丁寧に関わっていくことになる、人材不足という課題につながってくるだろうということ、あるいは、人材を投入しても、専門的な知識が不足し、教育、勉強の機会が大事だという話もあった。

- ・家族がいる方には家族へのケアも充実していく必要があるだろう。そこには24時間、365日サービス、アウトリーチも含めてというところで、ステップ・バイ・ステップで対応を広げていくことが必要ではないかという話もあった。難しい事例、成功事例、勉強会、事例検討なども大事。発症時、初発のときの支援、本人や家族へのフォローというところも課題か。

(4) 来年度の進め方について

- ・委員の任期は2年で、今回でその前半が終了。今年度は課題の整理をしたので、後半となる次年度はそれらを踏まえて、精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けて、その課題を解消するために何が必要か、どんな施策に取り組むべきかといった方向性について整理すべきとの提案が出る。

→来年度は、できるところはやっていく。研修に関しては、内容の工夫であるとか、何を目標にするのかとか、誰を対象にするのか協議する。令和7年度は取り組むべきことを検討していく。

【質疑応答】

- ・今回課題に上がった勉強不足に関してとか、人材不足に関して、課題を解決するために、やっぱり勉強不足なら講師を呼ぶとか。お金が

	<p>かかってくるが、その辺の予算とかというのは市で対応できるか。 →予算の問題だが、他の審議会などでは審議会のメンバー向けに講習実施している事例があるが、前年度に計画がないと予算が取れないので、今回については困難。この協議会というのは、市が今後どうやって事に取り組んでいくべきかというのを協議いただいている場なので、当該年度の当然予算がないが、ここでいただいた意見をそのまま次の年以降に生かしていくことは可能と見込んでいるので、その辺も含めた協議を、予算に縛られることなく意見をぜひいただきたい。</p> <p>3 その他 (特になし)</p> <p>4 次回の開催日について ・日程については後日アンケートで調整。</p>
提出資料	<p>次第</p> <p>資料1-1 地域移行支援退院促進の現況</p> <p>資料1-2 長期入院者のケースワーク状況</p> <p>資料2 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた事業所アンケート結果について</p> <p>資料3 令和5年度小金井市精神保健福祉連絡協議会まとめ</p>